

令和4年度 県立取手松陽高等学校自己評価表

目指す 学校像	学校・家庭・地域社会と緊密な連携を図りながら、教職員と生徒が協働して全ての教育活動に積極的に取り組み、明るく活力ある学校を目指す。具体的には、全日制普通科・美術科・音楽科を併せ持つ学校の特色を活かし、生徒の「生きる力」の育成と本校発展のために、教職員が明確な目標を持ち、教育実践の充実を図る。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成 状況
【 成 果 】 ○ 基本的な生活習慣の確立や服装容儀を整える生徒指導、課外授業の充実といった進学指導等を通して、国公立大学への進学や公務員試験合格者も増加した。 ○ コロナ禍の中、各学校行事、部活動、生徒会活動、国際交流活動等が縮小・中止になることが多かったが、工夫し組織的に活動することで、発想を蓄積することができた。 【 課 題 】 ○ 礼法や基本的生活習慣のより一層の定着と教職員一人一人が全体的な視野で取り組み、国際理解教育や道德教育の充実、部活動の活性化、生徒個々の進路実現を目指す。 ○ ICT 機器を活用した授業の充実を目指し、研修会への参加や公開授業を積極的に実施するなど、全教職員で授業改善に取り組む。	基本的な生活習慣（コロナ感染症対策の対応を含む）と学習習慣の定着	1 With コロナの状況下で、生徒・保護者・ご家族・職員の安心安全を確保しつつ、「学びを止めない」方策を試みる。 2 朝の交通指導と登校指導の充実を図り、挨拶・遅刻指導、端正な制服着用を含めた生徒指導を徹底する。 3 毎日の授業を大切にすると同時に、家庭学習習慣の徹底を図るため、保護者の理解と協力を得るように努める。	A
	ICT の活用を含めた学習による学力向上と主体的な学びの育成	4 ICT を活用した授業研究や職員研修を充実させることより、ICT を活用して学ぶ場面を効果的に授業に取り入れ、生徒の学力向上を図る。 5 積極的に課題や小テストを活用することで、家庭学習の時間を増やし、自主学習の習慣を定着させる。 6 年間を通して個別面談を計画的に実施し、進路について主体的に考える力を身に付けさせる。	B
	国公立大学や難関私立大へ挑戦する進学対策の確立	7 受験対策を充実させ、国公立大学合格者数延べ5人、私立大学合格者数延べ120人を目標とする。 8 進路講演会や高大連携などの取組を拡大し、生徒の進学意欲を高める。 9 土曜開放の内容充実やきめ細かい課外指導等により、一般入試で合格できる学力を育成する。 10 3年間を見通した体系的な進路指導の確立と、新しい学力観に対応した指導法の研究を図る。	B
	特別活動・部活動の活性化による学校生活の充実	11 部活動加入を働きかけ、加入率70%以上を目標とする。 12 地域行事への参加や地域の施設などと連携し、奉仕活動や体験活動・国際交流を積極的に推進する。また、学校HP、スクールガイド等を用いて情報発信を充実させる。 13 ホームルーム活動や学校行事及びボランティア活動等を充実させることで、自らを振り返り、将来を考え、自分の成長を認識できるようキャリアパスポートを活用する。	A
	働き方改革の推進	14 ICT の利活用による業務の効率化、資料等のペーパーレス化を推進することにより、教職員の業務改善を促す。 15 部活動の活動の質を高めることで活動時間を短縮し、生徒・職員の負担を軽減する。	A

三つの方針		具体的目標	評価		次年度（学期）への主な課題
「三つの方針」（スクール・ポリシー）	「育成を目指す資質・能力に関する方針」（グラデュエーション・ポリシー）	○ 心身ともに自立し、主体的に学び実践する生徒の育成 ○ 広い視野をもち、多様性を重んじ、社会に貢献できる生徒の育成 ○ 芸術やスポーツを通し、感性を磨き、心身ともに健康で人間性豊かな生徒の育成	B	B	教育活動全般を通じて他者との協働、多様性を認め合い自己実現を図る機会を模索する。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」（カリキュラム・ポリシー）	○ 課題の解決を目指し、主体的・対話的で深い学びを実現する探究活動の実施 ○ 芸術や文化、地球市民教育、ボランティア活動を通じて社会的視野を広げ、協働できる資質を身に付ける活動の実施 ○ 部活動や学校行事、地域と連携した芸術活動をはじめとする、特色ある活動の実施	A		様々な教育活動を学校外の関係者・諸機関と連携・共有する体制をより強固に構築する。
	「入学者の受入れに関する方針」（アドミッション・ポリシー）	○ 基本的生活習慣の身についた学習や活動に意欲的に取り組むことができる生徒 ○ 自らのキャリアを主体的に探究し、自己実現のために継続的に努力できる生徒 ○ 芸術や文化に関心を持ち、社会に貢献する意欲のある人間性豊かな生徒	B		本校に興味関心を抱く中学生や中学校関係者に、本校の期待する生徒像を明確に提示する。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教務	ICT を積極的に活用しながら、学校全体で授業の質を向上させ、より魅力的な授業展開を進める。	・授業改善を意識するよう校外での授業参観や研修会への参加を積極的に促す。	B	B	より生徒を伸ばせる授業展開を引き続き推進していきたい。
		・研究授業・公開授業(相互参観等)を推進し、全教職員で授業改善に取り組む。	B		
		・ICT を活用した教育活動を促進し効果的に授業等に活用することで授業の質の向上を図る。	B		
		・授業開始・終了時刻の厳守、出張・年休等における授業時間確保に努める。	B		
	特色ある学校づくりと学校全体の活性化を図る。	・3学科それぞれの特色を生かして連携を図り、学校全体の活性化を推進する。	A	B	特色をさらに磨くことにより、学校を活性化させたい。
		・地球市民教育を支援し、国際理解教育の充実を図る。	B		
	広報、外部への情報発信を活発に行うことで、本校の魅力を広め、認知度を高める。	・学校説明会、体験入学、公開授業等によって本校の教育活動を地域に開かれたものとし、本校の特色や魅力を積極的にPRする。	A	A	本校の認知度を高めるべく、多くの機会を作っていきたい。
		・情報部と連携し、学校HPの内容をより一層充実させ、「松陽通信」等により中学生や地域に向けての広報活動を活発に行う。	A		
生徒指導	基本的生活習慣の確立を図る。	・身だしなみを整えて生活をさせるために、登下校時の指導・授業時の指導（段階的指導）を徹底する。	B	B	集会やHR等で意識付けし、共通理解のもと指導していくこと。
		・挨拶を励行し、教員側からも積極的に挨拶をしていく。	A		
		・遅刻を減少させるために、昇降口での登校指導の充実、本人との面談、家庭との連絡を徹底する。また遅刻指導を実施する。	B		

	事故等の未然防止に努める。	・事故等（交通、生徒指導、校内における諸問題）の未然防止に努めるため、各関係機関との連携、必要に応じて生徒面談、保護者面談を行う。	B		
特別活動	学校行事を通して、所属する集団への帰属意識を高めるとともに、協調性や責任感を養う。	・文化祭やクラスマッチ、野球応援などを通して、協調性や責任感を身につけさせるとともに、達成感を味わわせ、学校やクラスへの帰属意識を高める。	A	A	キャリアパスポートの活用の仕方に改善点がある。生徒や指導する側がより活用しやすい仕方を模索していきたい。
		・キャリアパスポートを活用し、学校生活への見通しを立て、行事に主体的に取り組み、責任感を持って臨む態度を育成する。	B		
	生徒会活動、委員会活動、部活動への積極的な参加を推奨し、各種活動の活性化を図る。	・生徒が主体となって活動する生徒会活動、委員会活動、部活動を目指し、活動内容の充実を図るとともに、組織の一員としての自覚を持たせ、責任感を育成する。	A		部活動加入率（60％）があがる取り組みを各部で検討し、活動のさらなる活性化を目指したい。
		・ボランティア活動への参加を推奨し、奉仕の精神を育む。	A		
進路指導	進路目標を持ちその実現に向け行動することの重要性を自覚させ、そのための意欲と実力を養成する。	・最新の入試動向の情報収集に努め、各学年と協力し段階ごとの対策を進める。	B	B	学年をサポートする体制を早期に確立し、個々の生徒の進路実現に向け、多様な大学入学者選抜方法に的確に対応して道筋をつくる。
		・難化する大学一般受験にも対応できる学習力を育てるための指導体制を整える。	B		
		・入試方法の多様化に対し、各種検定受験の奨励に努める。	A		
		・生徒の進路希望の 100%実現を目指す。	B		
	学習習慣を確立させ自学力を高め、基礎学力の定着を図る。	・課外授業に加え、個別学習に積極的に取り組ませる。学校や家庭での主体的な 学習を促し、自学自習の習慣を定着させる。	B		1, 2 年時の基礎学力の定着に向けて、課外計画の拡充と、模試の受験前後の P D C A サイクルを確立する。医療系大学や専門学校への希望者・民間就職希望者・公務員就職希望者など、それぞれの希望に応じた進路実現計画を確立する。
		・専門学校希望者に対して、専門学校の特性を理解させ、オープンキャンパスや 進路講演会だけでなく、適切な選択をするための相談と情報提供に努める。	B		
		・就職希望者に対して、勤労観・職業感を身につけさせる。3 学年では個別指導 を徹底し、個々の適性にあった企業選択を支援する。	A		
		・HR 等での進路の手引きの利用を推奨する。また、保護者への情報提供に努めて連携を強化し、進路や学習に対する家庭での意識の啓発を図る。	B		
保健・厚生	新型コロナウイルス感染症対策への対応を図る。	・手洗い、うがいマスク着用の励行や、各教室やトイレ等の消毒液を設置し、こまめな使用を促し対応を図る。	B	A	コロナ感染症対策を次年度においても引き続き実施していく。
		・生徒の体調を把握し、保護者と連携をとり対応を速やかに行う。	A		
	保健室利用に対する職員の共通理解を図り、生徒の自己管理を支援する。	・保健室利用カードを用いて、担任や教科担当が生徒の状況を把握しやすくする。	A		保健室利用カードの活用を継続していく。
		・保健室の利用の仕方や注意点を明示し、時に応じて必要と思われる情報を生徒に知らせる。	A		
	施設整備を大切に扱う心や	・環境美化委員会による学期 1 回の学校周辺の美化活動を実施する。	B		コロナ禍でも出来そう

	公德心を育成する。	・松陽祭(文化祭)開催時に校舎周辺の美化活動を実施する。	A		なことを工夫し実施する。
	学校環境や清潔さの保持のため清掃を図る。	・必要に応じて清掃区域等の見直しや工夫をする。	A		ゴミの分別が出来ていないことがあるので、年度当初に周知する。
		・一斉清掃時の具体的な重点目標を明示する。	A		
		・確実なごみ分別のために、分別表を各クラスに通年掲示する。	A		
渉外	PTA 活動を活発にするように働きかける。	・コロナ禍における PTA 総会の実施方法について検討する。	A	B	PTA 総会について、グループフォームを活用した「書面表決」を実施し、保護者の回答率が向上した。コロナ禍における PTA 行事のあり方について検討を要する。
		・PTA 本部役員と連携し、積極的に活動しようとする流れを継続させる。	A		
		・研修委員会や本部、各支部が企画する行事を保護者に知ってもらい、積極的に参加してもらえよう、情報が会員の手元に届くような工夫をする。	B		
	同窓会との連携を密にする。	・同窓会役員との連絡を密にし、活発に活動できるように働きかける。本校の教育活動を後援してくれる会になるよう、卒業生に働きかけていく。	B		創立 40 周年記念事業の記念品についての検討。
図書	読書場・学習場・調べ場としての機能の充実を図る。	・蔵書整理等で書架を整理し、利用しやすい図書館を目指す。	A	B	図書館の環境をさらに整えるとともに、教科・学年と連携して、本の展示・紹介方法を工夫するなどして、利用者を増やす。
		・季節やテーマに沿った館内ディスプレイを工夫し、居心地の良い図書館を目指す。	B		
		・「図書館便り」を発行し、本に興味を持たせる。	B		
		・職員、生徒からの図書購入希望に対応し、「読みたい本」のある図書館を目指す。	A		
		・新入生に対する図書館ガイダンスを実施し、利用の促進を図る。	A		
		・公共図書館の利用案内・県立図書館サービスの活用方法の案内をする。	C		
	図書委員会の活性化を図る。	・よりよい図書館利用のために、研修会への参加を促す。	A		当番生徒と担当教諭の連携を密にして、より活動の活性化を図る。
		・図書委員の当番の仕事(カウンター業務・購入図書のコーティングなど)を明確化し、責任を持って取り組ませる。	B		
情報	IT を含めた環境整備と IT を活用した授業の推進を積極的に図る。	・パソコンを中心に保守・点検を行い、入替え・更新等を検討して、よりよい環境整備を進める。同時に古いパソコン等の廃棄処分を計画的に行う。	A	B	パソコンの所在把握や状況確認を行えた。授業においては今後もモデル授業を研究していく。
		・特に新入生に対してタブレット、電子黒板を活用した授業等を行っていく。	B		
	個人情報の保護と情報モラルについての研究を進める	・学校で取り扱う電子データについて、その保護及びバックアップを行い、個人情報保護の方策(データの管理体制など)を万全とするための取り組みを推し進める。	B		生徒情報等適切に管理することができた。教科とホームルーム等を活用して指導する点では今後も連携していく。
		・教科「情報」や生徒指導部と連携を図って、情報モラルについての職員の共通理解・生徒への指導を進める。	B		
	本校の保護者や入学希望者やその保護者にきめ細かな	・ホームページを通して、本校の特色・教育目標・活動状況などをより分かりやすく伝えられるような最新情報を随時提供する。	A		今年度ホームページは大規模改良ができ、良好な状態

	情報提供を行う。	・緊急情報配信メールについて在校生・保護者に有益な情報源となるような配信の体制作りと実際の配信を目指す。	A		である。各家庭・生徒へのメール配信は円滑に活用できた。
美術科	授業を中心とした指導体制の強化を図り、実技向上と教科学習の両立を目指しながら、表現に必要な技能を高める。	・学習と実技を両立させるために、制作時間の確保と効率良く教科学習ができるように授業担当者と連携を図り、バランス良い学習習慣の定着を図る。	B	B	実技向上とともに学力も向上している。全体的に底上げされてきているので、今後はさらに、思考力が身につく学習環境を整えていきたい。
		・大学・予備校との連携を積極的に行うことで、実技力向上を目指し、制作を通して観察力・思考力・描写力・集中力・忍耐力を培う。	A		
		・ICT環境を整えるとともに、授業の中で積極的に活用していく。	B		
	課題制作を通して必要な知識・技能を身につけ、第26回取手松陽美術科展の成功を目指す。	・専攻授業年35日を可能な限り確保し、より完成度の高い作品制作と発表できる環境を整える。	A		制作や活動に対して真摯に取り組む姿勢が全体を通して感じられた。
		・展覧会を開催するために必要な各種作業を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を養うとともに、達成感や充実感を味わわせ自分の役割に責任を持てるようにする。	A		
	様々な行事体験を通して進路意識の向上と美術界の次代を担う人材育成を目指す。	・芸術鑑賞会等で本物に触れる機会をできるだけ増やし、美術の文化や歴史を学ぶことで豊かな感性を育み、伝統や文化に対する興味・関心をより高めていく。	B		トリックアート展に挑戦したことで、学年を超えたコミュニケーションを図ることができ、美術で社会の役に立つという今後につながる経験ができた。
		・オープンキャンパスや大学・予備校などの出張授業や講習会への参加を促し、幅広い芸術分野への興味・関心と理解を深め、進路選択の幅を広げると同時に保護者との連携を図りながら、自らの進路について探究できる力を醸成していく。	B		
		・地域や各種機関からの参加要請や、ボランティア、コンクール応募等に可能な限り応え、美術科としての誇りとプライドを持ちながら、社会貢献の一助を担えるように促す。	A		
音楽科	授業を核とした豊かな人間性の育成と個の能力を高める指導体制の充実を図る。	・毎日の授業を大切に、何事にも興味をもって学習する姿勢を身につけさせ、専門科目と教科学習をバランス良く学習することで豊かな人間性を培う。	A	B	今年度同様、次年度も日々の授業を充実させることを何よりも優先させていきたい。
		・非常勤講師と連携し、指導法の工夫や教材研究を共同的に行う。また、専門実技年間35日をはじめ授業日の確保に努め、実技の個人指導やソルフェージュの習熟度別学習を通して、一人ひとりの能力を高める指導体制の充実を図る。	A		
	進路意識の具体化を図る。	・オープンキャンパスや講習会への参加を促し、進路に対する意識の高揚と目標の明確化を図る。高大連携として、各音楽大学に公開レッスンや実技ガイダンスの要請を積極的に行い、情報提供や交流を図る。	B		音楽科として多くの先生方が関わって、生徒の進路実現に向けて指導できる体制を整えたい。
		・保護者、実技担当者、大学との連携を図り、生徒の希望進路の実現に向けて努力できるよう、面談や個人指導を重ねる。	B		
	様々な音楽科行事を通して芸術的感性の伸長を目指す。	・校内外における演奏会や公開レッスン、芸術鑑賞会など生徒の芸術的感性を刺激するような行事を積極的に企画運営する。また、行事を通して社会における音楽の役割や意義についても考える機会をもたせたい。	A		今年度は実施時期が集中してしまったので、生徒の成長段階と学校全体の行事も含めバランスよく年間行事を組むように心がけたい。
		・正しい服装やマナーの大切さを自覚させ、アーティストとしての誇りと調和の取れた人間性を培う。	B		

	地域社会や中学校への働きかけを重視し、相互理解を深める。	・中学校訪問、体験入学、学校説明会、HP の活用など対外的広報活動を充実させ、地域社会や中学校との相互理解を深める。また、地域事業への参加や訪問コンサートを実施し、音楽を通じた地域社会への働きかけを継続する。	A		HP は改善できたので、次年度は中学校訪問に力を入れていきたい。
事務	施設及び設備を安全で充実した教育活動ができるように整備をしていく。	・施設及び設備の点検を行い、不良箇所については早急に修繕する。	B	B	施設の巡回や職員からの報告に迅速な対応をする。
		・関係部署と打ち合わせをして、新型コロナウイルス対策をしていく。	B		
	会計を効率的に執行する。	・備品、消耗品を計画的に購入し、授業で有効活用できるようにする。	B		先生方からの要望をよく確認し綿密に話し合いをして早めに進めていく。
		・規則等を遵守して適正で有効的な予算執行をする。	B		
教科指導	指導計画を充実させ、ICT の活用を含めた指導形態・方法の工夫に努め、授業力の向上を図る。	・観点別評価を重視し、総合的な評価を目指すことで、生徒の学習意欲を高める工夫に努める。	B	B	評価法の研究を引き続き継続し、生徒・保護者が納得する基準を作成する。ICT のより効果的な活用法について研究を進め、研修で職員間の共通理解を図る。
		・ICT を効果的に活用し、より活動的な分かりやすい授業を実践する。	A		
		・教職員の研修を充実させ、指導法の向上に努める。	B		
	自ら学習に取り組む意欲を高め課題解決能力の向上を目指す。	・学力向上重点目標を実現させるため、学年多目的室や個別学習室の充実を支援し、自主学習の定着を図る。 ・生徒による授業評価アンケート結果を授業改善に活用できるよう努める。	B		利用生徒が限定される傾向があったため、広く周知に努める。授業評価アンケートに基づく職員研修を実施する。
国語	計画的に授業を展開し、授業力を向上させる。	・授業目標に沿う授業計画を立案し、密度の濃い授業を展開する。	B	B	計画的に授業を展開することができた。
		・授業終了後に授業内容を点検し、次の時間の授業改善につなげる。	B		
	基礎学力の定着を図ると共に、進学対策を充実させる。	・小テストを利用して学習理解度を点検し、不十分な生徒に課題等を課す。	B		課外授業の実施による充実した進学対策を行うことができた。 観点別評価について、評価基準の詳細についての検討を要する。
		・課外授業を充実させ、応用力を身に付けさせる。 ・現代文はもちろん、興味を失いがちな古典に対しても、言葉や文化が現代の日常生活に密着していることを習得させる	B		
地理歴史	学ぶ意義を理解し、学ぶ楽しさを実感できる授業を展開する。	・教材、授業内容・方法について情報交換を密にし、教員間で高め合う。	A	B	授業における ICT の効果的な活用について互いに授業を研究し合うことができた。今後も研鑽に努めたい。
		・各種研修会に積極的に参加し、成果を共有し、相互の研鑽に努める。	B		
		・ICT 機器を効果的に活用させ、資料活用能力を伸ばし、社会的事象を多面的に捉えさせる授業を展開する。	B		
	生徒の学習理解を把握し、適切に評価する。	・あらゆる機会、材料を通じて生徒の学習理解度を的確に把握し、授業の展開に役立て、多角的・多面的な評価を実施していく。	B		観点別に適切に評価を行ったが、評価基準をさらに明確にしたい。
公民	学ぶ意義を理解し、学ぶ楽	・教材、授業内容・方法について情報交換を密にし、教員間で高め合う。	A	B	授業における ICT の効果的

	しさを実感できる授業を展開する。	・各種研修会に積極的に参加し、成果を共有し、相互の研鑽に努める。	B		な活用について互いに授業を研究し合うことができた。今後も研鑽に努めたい。
		・ICT 機器を効果的に活用させ、資料活用能力を伸ばし、社会的事象を多面的に捉えさせる授業を展開する。	B		
	生徒の学習理解を把握し、適切に評価する。	・あらゆる機会、材料を通じて生徒の学習理解度を的確に把握し、授業の展開に役立て、多角的・多面的な評価を実施していく。	B		観点別に適切に評価を行ったが、評価基準をさらに明確にしたい。
数学	進路希望に即した授業の展開を図る。	・年間指導計画を作成し、それに基づいて授業を実施して、定期的に授業の進め方や教材の用い方を検討し、生徒の実態に応じた授業を展開する。	A	B	生徒の実態に応じた授業はできている。今後は、個々の生徒の状況に応じた指導ができるように、今後も取り組んでいく。
		・進度・内容・教材の工夫等の連絡・研究を密にし、個人の進路希望に対応できるように、チームとして指導する。	B		
	生徒の基礎学力の定着を図る。	・予習・復習の習慣付けを促す。	B		定期的に小テストや課題の提出はできている。今後は学習の習慣付けや応用力の育成も図っていきたい。
		・定期的に小テストや課題提出を実施し、基礎的事項の定着に努める。	A		
		・理解不十分な生徒への補習を実施するなど、学力の全体的な底上げを図る。	B		
		・計画的な課外により応用力を高める。	B		
理科	身近な自然現象を探究させることをとおして、自然科学に対する興味関心を高めさせる。	・考える機会を意識した授業を展開し、自然について興味関心を高め、その原理や法則についての理解を深める。	B	B	実験活動や原理を考える時間をとって授業を行うことができた。今後も考えさせる授業に取り組んでいく。
		・身近にある材料や自然現象を活用した観察・実験を行いながら、器具の基本的操作を習得させる。	A		
	協同学習や振り返り学習において、積極的な学びの姿勢を高めさせる。	・タブレットや電子黒板などを用いて、ICT を活用した協同学習また視聴覚教材を授業に取り入れる。	B		話し合わせることも取り組んではいるが、ICT 同様まだ十分な量には足りないと感じる。今後も検討していく。
		・実験活動や協同学習で話し合いを行い、思考力・判断力・表現力を向上させる。	B		
	科学的な思考力を磨くために基礎学力を習得させる。	・生徒の実態に即した学習課題を出し、授業の予習と復習を促し、生徒が主体的に授業に取り組めるようにする。	B		基礎学力の伸展に資することはできたが、自宅学習におけるタブレットの活用も含め、授業の充実に向けて今後も検討していく。
保健体育	体力、運動技能を高めるとともに、運動の楽しさ、喜びを様々な方法で味わい、生涯に渡って運動に親しむ実践力を育てる。	・体力テストの結果から自己の体力状況を捉えさせ、一人ひとりに合った運動時間、運動量を確保させ、体力の向上を図る。	A	A	運動量の確保と共に、ICT 機器を工夫して活用し、運動への理解や考える力を養いながら運動に親しむ実践力を更に深めていく
		・チーム毎に作戦や計画を立てさせ、練習内容を工夫し協力し合うことで、自己の役割を果たす態度を育て、運動の喜びや楽しさを経験させる。	A		
		・さまざまな体づくり運動を通して、運動に対する興味・関心を高めさせると共に、基礎的な体力・	A		

		技能を向上させる。			い。
	健康・安全についての理解を深め、自らの健康を適切に管理する力を育てる。	・健康に関する個人の適切な意志決定や行動選択が実践できるようにする。	A		実生活に即した教材を I C T やペアワーク等で工夫して取り入れ、健康に対しての正しい行動選択が実践できるような授業内容にしていく。
		・ICTなどを効果的に活用し、様々な感染症の原因、及び予防のための個人の行動選択や社会の対策について理解させ、自己の健康管理に努めさせる。	A		
		・薬物乱用、未成年者の飲酒、喫煙は心身の健康に深刻な影響を与えることを実生活に即して理解させ、絶対に関わらないという意志を持たせる。	A		
英語	英語に対する苦手意識をなくし、前向きな学習態度を涵養する。	・ICTなどを効果的に活用することによって、生徒の学習内容に対する興味・関心をより一層持たせる授業を展開する。	A	B	ICT やペアワークを取り入れた授業が多く行われた。これからは正解を答えるのではなく、自由に表現する活動などに挑戦したい。
		・教師からの一方通行の説明ではなく、ペアとのやり取りやグループワークを取り入れ、生徒の授業への積極的な参加を図る。	A		
	4技能をバランスよく伸ばすことで、外部試験の合格者数を増やす。	・外部試験（英検など）の積極的な受験を促し、それらの合格に向けた課外や面接練習などのサポートを充実させる。	B		今年度の英検の受験者は全体の2割に止まった。検定受験とその対策を授業にも取り入れて受験者と合格者の数を増やしていきたい。
		・リーディングや文法に偏らず、スピーキングやライティングの指導にも時間をかけ、4技能をバランスよく伸ばす指導をする。	B		
	指導と評価を一体化させる。生徒に学習の習慣を身に付けさせる。	・この授業で学べば「何ができるようになるのか」を明確に表す。教師は何を教え、生徒には何を身につけるのか、そしてそれをどう評価するのかを考えて授業を設計する。	B		計画的に授業をするために、3年間の到達目標を設定しそこから授業をデザインする必要性を感じた。
		・小テストの実施や課題を計画的に課すことにより学習意欲の喚起と家庭学習時間の確保に努める。	A		
家庭	生活の営みを総合的にとらえ、社会とのかかわりを理解させる。	・家庭生活の様々な事象の原理・原則について、科学的根拠に基づいて理解させる。	A	B	個人の生活から地域社会との関わりについて視野を広げるための情報を提供していきたい。
		・消費や環境など地域社会とのかかわりを理解させ、グループによる対話的学習を通して、意志決定や問題解決能力を高める。	B		
	生活に必要な知識や技術を習得させ、生活を創造する実践的態度を養う。	・グループによる実験・実習を通して、協力する姿勢や相手を思いやる態度を育む。	A		技術の習得による個人差をなくし苦手意識を克服できるような授業展開を心がけたい。
		・基本的な知識や技術を習得し、ホームプロジェクトなどを通して、主体的に生活を創造する実践的態度を養う。	B		
情報	情報化社会で生き抜く力を養う。	・情報モラルを身に付けるとともに、最新の I T 環境を踏まえて著作権等の他人の権利を尊重する姿勢を育む。	B	A	ある程度は身についてきたが、未だにタブレットを使った問題行動が見られるため、さらなる指導が必要。
	正しい情報を収集する力を養う。	・ブラウザなどを用いたインターネット上の情報検索について知り、有益な情報収集の手段を学び、	A		

		知り得た情報を有効活用する。			に調べていた。今後は、どの情報が必要かを各自で判断できる力を養っていききたい。
	情報を正しく発信できる力を養う。	・プレゼンテーション作成ソフトを使って作品を作り、その発表を通してプレゼンの有効活用や情報発信の基礎を身に付ける。	A		Google スライドを使って、プレゼンテーションを作る授業を行った。グループで活動を行ったが、今後は、一人でも作成発表ができるよう指導していきたい。
1 学年	高校生としての基本的な生活習慣を確立する。	・時間に余裕のある行動を心がけ、落ち着いた生活態度を養う。	A	A	生活は大きく変わったと思うが、日々よく頑張っている。服装・頭髪も含めて、生徒指導上、大きな問題がないことは素晴らしい。
		・制服をきちんと着こなし、礼儀正しい振る舞いを身につけさせる。	A		
		・校則を守るとともに、公共のルールやマナーを理解し実践する態度を養う。	A		
	学習目標を明確にし、家庭での学習習慣を定着させる。	・予習復習などの学習習慣を身につけ、基礎学力の定着を図る。	B		放課後、長期休暇中の課外などに積極的に参加する生徒は多い。しかし、全体で見ると、家庭学習をしていない生徒は多い。
		・資格取得などの目標を持ち、計画的・継続的な学習に取り組ませる。	B		
		・課外学習や進路活動などを通して自主的な学習を深め、進路選択に関する意識を高める。	A		
	学校行事や地域の活動に積極的に取り組み、人間性を育む。	・クラスマッチや文化祭などの学校行事を通して、協調性や責任感を育む。	A		コロナ禍のため、地域活動などは制限されており難しいが、次年度は校外での活動機会を増やしたい。
		・ボランティア活動などを通して地域の方々との交流を深め、奉仕の心を育む。	B		
		・社会的問題に関心を持ち、課題解決に向け努力する姿勢を育む。	B		
2 学年	高校生としての基本的な生活習慣を継続させる。	・時間に余裕のある行動を心がけ、落ち着いた生活態度を養う。	A	B	時間を守る姿勢については身につけてきたが、高校生らしい立ち居振る舞いについて、進路指導とともに指導していきたい。
		・制服をきちんと着こなし、礼儀正しい振る舞いを身につけさせる。	B		
		・校則を守るとともに、公共のルールやマナーを理解し実践する態度を養う。	A		
	授業や家庭学習に意欲的に取り組み、進路に関する主体性を高める。	・日々の授業を大切にするとともに、家庭学習や課外学習で学力の向上に励む。	B		落ち着いた授業態度ではあるが学習意欲に乏しいため、少しずつ目標を達成していく段階的・継続的な学習指導を心がけ、進路実現に向けて努力させたい。
		・生徒による授業評価の結果を、魅力ある授業づくりに資するよう改善に努める。	A		
		・資格取得などの目標を持ち、自主的で計画性のある学習を身につけさせる。	B		
		・進路活動を通して進路への主体性を高めるとともに、進路目標を明確化させる。	A		
	学校行事や地域の活動に積	・修学旅行や文化祭などの学校行事を通して、協調性や責任感を育む。	A		学校行事を通して協調性は

	極的に取り組み、人間性を深める。	・ボランティア活動などを通して地域の方々との交流を深め、奉仕の心を育む。	B		身に付きつつあるが、地域社会に主体的に取り組めるよう社会性を育みたい。
		・社会的問題に関心を持ち視野を広げ、課題解決に向け努力する姿勢を育む。	B		
3 学年	自他を敬愛し思いやりの心を持ち、協力と奉仕の態度を養う指導	・先を見据えた行動を意識させる（時間割、行事予定等）。	B	B	限られた行事の中で、クラスでしっかりとまとまり、計画実施することができた。
		・学校行事、HR活動、その他普段の生活で、自他敬愛を意識させ、学年やクラスのまとまりをつくり、よりよい雰囲気づくりをしていく。	A		
	規範意識や礼儀を重んじる心、集団の中でふさわしい態度を育成する。	・自己中心的な言動を控え、集団のなかでの立ち位置を意識させる。	B		基本的生活習慣が乱れそうな生徒を早期に指導できるような体制が必要である。 学習時間の確保を目指し、学習時間調査など取り組む必要がある。
		・率先して行動できる生徒を育成し他人を思いやる心を育む。	B		
		・社会生活におけるマナーについても指導していく。	A		
	生徒個々の能力と、希望に応じた進路指導	・進路に関する行事を通して、より多くの生徒のやる気を引き出していく。	A		進路方針を明確にし、教員間で共有する必要があった。進路決定においても、総合型が増加し、可否決定後の対応の検討が必要である。
		・個の能力に対応すべく、積極的に面談を行い、生徒・保護者との連携をとる	B		
		・より多くの進路情報を生徒に伝えていく。	A		

※ 評価規準 A：大変よくできた B：よくできた C：ふつう D：やや不足 E：不十分